

除雪中の事故の危険を理解し、安全な対策を講じることが、事故を防ぎます。

除雪中の事故の効果的な対策

1 みんなで協力・助け合い

- ① 地域コミュニティの共助による雪処理活動を行う仕組みをつくりましょう。

日時を決めて、近隣どうし、地域が一齐に除雪作業を行いましょう。



- ② 近隣、地域で日頃からの見守りや声かけをしましょう。

日頃から除雪作業をしている人に声をかけたり、1人で作業している人に注意をしましょう。

- ③ 地域内外の雪処理の担い手による協力が必要です。

地域内外から雪処理の担い手を受け入れるための仕組みをつくりましょう。

近隣どうし、地域コミュニティによる共助の事例

山形県尾花沢市

地域の共助による一齐除雪の実施



高齢者宅の除雪の様子



地域住民による屋根の雪下ろし

安全に作業を行うための技術指導、講習会の事例

秋田県横手市

安全な雪下ろし講習会



住民にはしごの固定方法を指導



住民に命綱を装着した雪下ろしを指導



除雪用具の例

- ④ 「注意喚起」の情報に気をつけましょう。

除雪中の事故が起こりやすい時に行われる広報に気を配りましょう。

気温が上がって雪が緩みやすくなった時などに、広報誌、防災無線、ケーブルテレビ、ラジオ等で流される「注意喚起」の情報、お知らせに気をつけましょう。

雪害の事故防止を呼びかけるチラシ



(札幌方面厚別警察署)

ケーブルテレビによる雪の事故防止の情報提供



(新潟県上越市安塚区)

告知端末



(新潟県上越市安塚区)

積雪量、降雪量、最高気温に基づく事故の発生しやすいタイミングで発信される「雪下ろし・落雪事故防止注意喚起情報」の活用 (山形県)

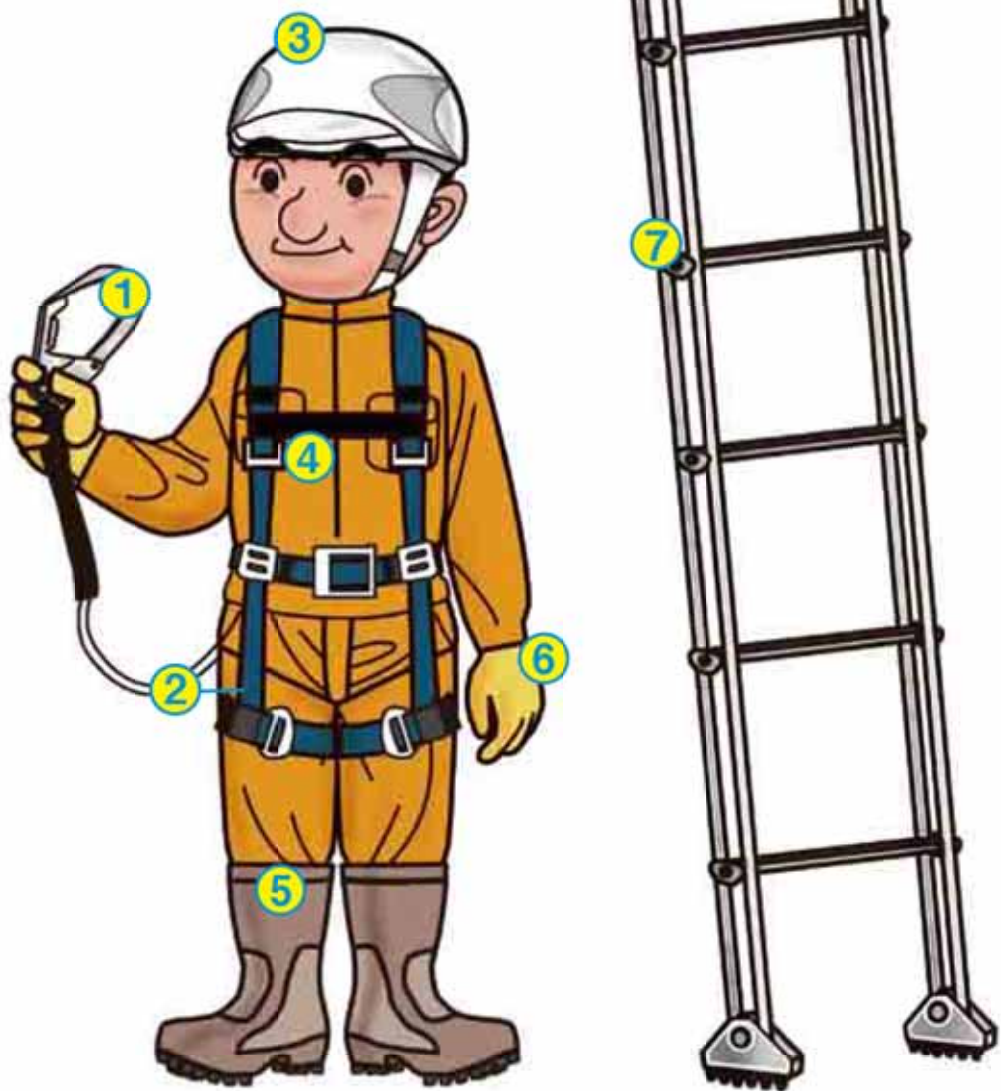
この情報は、山形県と(独)防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄支所の協力により立ち上げた。



2 安全な除雪作業のための技術指導、講習会への参加

市町村、消防署、警察署などが開催する安全な除雪作業のための技術指導、講習会に参加しましょう。

安全な除雪作業のための装備の例

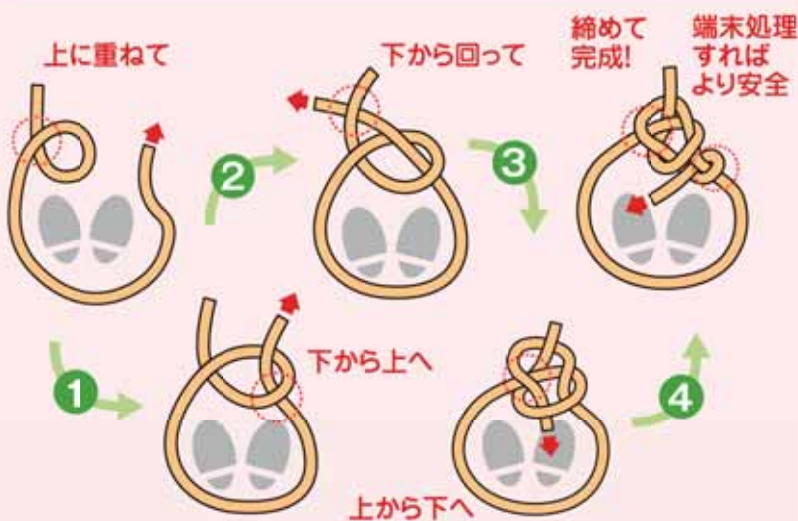


- 1 専用フックのついた命綱と安全帯
- 2 安全帯は体全体を支えるフルハーネスタイプもあります
- 3 ヘルメットは正しく着用
- 4 動きやすい服装で。目立つ色がおすすめ
- 5 靴底が滑りにくいゴム長靴
- 6 防寒性の滑りにくい手袋
- 7 滑り止め金具のついたはしご

転落防止のため、安全帯や命綱を使いましょう。

- 命綱を体に固定するには専用のフックがついた安全帯の使用が効果的です。
- 安全帯がない場合は、命綱にはザイルや麻ロープを使用しましょう。トラロープは滑りやすいので使わないようにしましょう。
- 命綱を固定するには反対側の家の柱に固定するなど状況に応じて工夫しましょう。
- 命綱は屋根の上で止まる長さに調節しましょう。

安全帯がない場合の命綱の結び方(もやい結び)



ロープによる命綱を腰など体に巻く時は、ゆるめずしっかり巻きましょう。

除雪機の雪詰まり除去はエンジンを止めてから行いましょう。

- 除雪機の雪詰まり除去は、素手で行わず、棒などを使って行いましょう。



はしごはしっかり固定し、足場は滑らないようにしましょう。

- はしごの転倒防止のため、はしごの足元をしっかりと固め、ロープや器具などを用いて屋根に固定しましょう。
- はしごは屋根に対して真っ直ぐに、決められた角度でかけましょう。斜め屋根への立てかけは危険です。
- はしごの昇り降りの際には特に注意しましょう。

はしご固定の例
(家屋のまわりにロープをめぐらせて固定)



除雪の道具のメンテナンスを忘れずに。

- スコップ、スノーダンプはロウを塗るなどして手入れを怠らないようにしましょう。雪がつきにくくなるスプレーも市販されています。

3 安全な道具、機器の利用

事故の防止に役立つ道具、器具、機器を利用しましょう。

- 命綱セット(安全帯・ハーネス・命綱・フック等)やヘルメットを備えましょう。

4 事故発生に備えて

救急救命の方法、AEDの使い方を知っておきましょう。

- 除雪中の事故を想定した救急救命講習やAED講習に参加して、救急救命の方法やAEDの使い方を日頃から身につけておきましょう。
- AED=自動体外式除細動器。心臓がけいれんし、血液を流すポンプ機能を失った状態(心室細動)の時に、心臓に電気ショックを与え正常なリズムに戻すための医療機器。

除雪作業時には携帯電話を携行しましょう。

- 除雪作業時には携帯電話を携行して、もし事故が起こったときに家族や近隣、救急医療機関などへ連絡がとれるようにしましょう。

